

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372301046
法人名	社会福祉法人 伸生紀
事業所名	グループホーム こもれび
訪問調査日	平成 20 年 6 月 2 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4372301046
法人名	社会福祉法人 伸生紀
事業所名	グループホーム こもれび
所在地	熊本県下益城郡美里町佐俣388番地 (電話) 0964-47-6206

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年6月2日	評価確定日	平成20年6月30日

【情報提供票より】(20年5月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋
	1階建て 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.11歳	最低	82歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ともち未来病院 ・ 渡辺歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

美里町の中心部に位置し周囲には商店街があり静けさの中にも活気ある雰囲気の中にホームがある。玄関を入ると広く自由な空間であり、室内は床暖房のフローリングと天然木のテーブルが温かさを演出している。また、簡素な調度品が入居者・訪問者に落ち着きを与えて、職員はカウンター越しに記録の整備と確認を行い、入居者を温かい目線で見守ることにより行動を抑制することなく自由な雰囲気がある。職員は問いかけを多くし認知症の進行防止と身体機能の維持改善のために日常生活に歩行訓練(ウォーキング)を取りいれている。母体の特別養護老人ホームと社協等が立地する福祉の中心地にあるホームは地域密着型として活動している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 事故防止に関して、事故発生時間帯・その要因を課題分析し、統計を取ることで事故発生が明確になりつつある。また、事故を未然に防止するために入居者の心身の状況・発生時間を把握し、見守りにあり方・職員配置を強化することにより事故防止に繋がっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に関しては今回管理職のみでの作成となってしまったが、外部評価の指摘事項は全職員で確認すると共に改善点を一覧表にまとめ全職員共通課題として認識している。また、運営推進会議に提示し意見を取り入れ、入居者に対する介護サービスの向上に努める意向である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的な運営推進会議は美里町福祉係長・地域包括支援センター・区長・家族会の参加により、ホームの現状・ホームよりの行事の説明が主な議題であったが、回を重ねるにつれ、地域密着型ホームとして期待をこめた有意義な意見が参加者より提案されている。そのひとつに参加者よりウォーキング(歩行訓練)の採用の意見に関しては早速職員で検討し、移動介助時入居者の能力により歩行距離・時間を勘案し日常生活の中でリハビリテーションを確立している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族より要望や意見の把握に努め、家族の訪問時には入居者の近況報告を行い、ホーム便りの発行により定期的な報告としている。ホーム内には苦情相談担当窓口と担当者名を明示すると共に外部の公的機関を掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議を地域との接点として活用し、地域へホーム便りを配布するなど交流促進に努力している。また、地域の「ふれあいサロン」に入居者と地域の住民との交流も深まりを見せている。また、地域の小・中学生の体験学習を通して、今後もより一層日常的な交流を繋げていきたい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「入居者に対する尊敬と敬愛の精神」・「健全で安らかな生活の援助」・「職員の専門的知識の向上」を掲げ、その一つ一つには開設者の想いがこめられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年度ホームの目標を計画し実行している。今年度は地域との交流を大切に地域交流会を通してグループホームの啓発に取り組んでいる。職員は朝礼時に理念を唱和することにより入居者主体の生活援助に努めている。	○	ホームとしての独自の目標を立て全職員で目標達成に向け活動中ではあるが、具体性に欠けてる面が見られる。ホーム独自の目標・計画を全職員で企画・立案しホーム内外に周知されることを期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「ふれあいサロン」等の参加など日常的に地域との人的交流を通して認知症の進行防止を図っている。職員も普段から地域との交流を心がけ朝夕の挨拶はもとより、短時間であっても地域住民とのコミュニケーションを保っている。また、食材等は地域の商店を利用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関しては今回管理職のみでの作成となっていたが、外部評価の指摘事項は全職員で確認すると共に改善点を一覧表にまとめ全職員共通課題として認識している。また、運営推進会議に提示し意見を集約し、入居者に対する介護サービスの向上に努める意向である。	○	自己評価作成は、ホーム全体の問題とし管理職のみならず全職員での作成が必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的な運営推進会議は美里町福祉係長・地域包括支援センター・区長・家族会の参加により、ホームの現状・ホームからの行事の説明が主な議題であったが、回を重ねるにつれ、地域密着型ホームとして期待をこめた有意義な意見が参加者より提案されている。そのひとつに参加者よりウォーキング(歩行訓練)の採用の意見に関しては早速職員で検討し、移動介助時入居者の能力により歩行距離・時間を勘案し日常生活の中でリハビリテーションを確立している。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議参加者でもある福祉課介護保険係長よりの助言・指導を得ることにより、より良い関係が構築されている。町主催の地域支援事業へ参加し、ともに質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時、入居者の心身の状態や金銭管理の報告とサインによる確実性を図り、遠方の家族には定期的にホーム便りを発送し家族の不安解消に努めている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から家族との密なコミュニケーションにより家族の面会時要望や意見の把握に努めている。ホーム内には苦情相談担当窓口には担当者名を明示すると共に外部の公共機関を掲示している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>全職員の就業形態は常勤となっており過去1年間職員の異動は行われておらず、退職者もいないため、安定的なケアを提供している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は職員育成にホーム内勉強会・法人勉強会・外部研修を推進している。ホーム内では「食事」「排泄」「移動」等担当制として発表の場を設けている。法人の勉強会は「抑制廃止」「施設内感染」「防災対策」等定期的に実施している。外部研修参加者は全職員に伝達講習することで情報の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会で同業者との交流や情報交換・連携を取っている。人事交流を視野に入れたホーム同士の見学の受け入れを計画中である。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の相談時本人・家族との面談を通してホームの説明・家族からの情報収集に努め必要に応じ体験宿泊も実施し、納得していただいた上での入居に努めている。入居後の家族との連携を密にした支援が行われている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の意向・趣味・嗜好を把握し入居者と向かい合い入居者のできることを中心に協力しながら1日を過ごしている。入居者より料理法を習ったり、味付けを見ていただくなど入居者と職員は共感し・連携することにより共に生活を支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の情報を把握し、一人ひとりと向かい合い傾聴することで入居者の状況を察知するように努力している。意思表示が困難な入居者であっても表情・行動を観察することによって意向を把握するように努め、入居者主体の生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングで入居者の状態について全員で話し合いの場を持ち、本人や家族の意向を踏まえニーズに即したプラン作りが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、入居者の現状に応じ適切なプラン変更が行われている。長期入院中の入居者やその家族の要望に応え病院にも頻繁に足を運び入居者との関係継続に努め、ホーム復帰を全面的にバックアップする等、刻々と変わる入居者のいまを支援している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の特別養護老人ホームの勉強会へ全職員参加し身体拘束や施設内感染についての認識を深めたり、行事への参加等日常的な訪問により入居者同士の交流を図るなど支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重し、入居前からの医療機関の受診を支援している。通常受診は家族対応とし、緊急時はホーム対応としている。毎週1回の嘱託医の往診を実施し入居者の健康管理を行うと共に医師からの助言を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の「看取りに関する指針」を終末ケアの柱と位置づけ全職員が共有している。機会あるごとに家族への説明も行われているが、まだ事例はない。	○	看取りに関する基本方針は法人全体として確固たるものが作成されているが、文言や支援内容については微妙な違いがあると思われるので、ホーム独自の方向性を確立されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけは常に穏やかで、職員は対面式の調理場で食事の準備をしながらも入居者との会話に自然体で応じ常に言動に気配りをしている。また、個人の記録物については入居者の目に触れないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の簡素化を図り、入居者とゆっくり向かい合う時間を大切にしている。何でも言い合える関係でありたいと職員が意識して入居者の意向を引き出す努力をしている。		
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に応じて下ごしらえや、洗い物などを支援している。対面式の調理場では職員と入居者との楽しい会話がホール全体に響き調理の音や匂いを感じながらの生活がある。日常の食事の外、誕生日に出前を取ったり外食を楽しんだり食への支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3～4回の支援が行われている。時間帯は設定しているが、その中で個人の入りたい時間に対応している。お湯は天然の温泉で、手入れの行き届いた浴室でゆったり楽しむ入浴を提供している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや、後片付け、掃除や買い物への同行など入居者の好きなこと、出来る事を見出し、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少人数ではあるが自らホーム周辺を散歩されたり、隣接する特養施設のデイサービスを利用されたり、食材の買出しに同行される等外出の機会を多く支援している。また、入居者の楽しみでもある外食に近くのレストランを利用したり、おやつを食べに出かけたりと入居者の希望を聞きながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間20時に玄関を施錠する以外は全てオープンで、入居者や訪問者が自由に入出入りすることができる。また、各居室も入居者自らが鍵をかけない限り、いつでも出入りが可能である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	“火災地震非難対応マニュアル”を元にそれぞれに担当職員を決め母体の特別養護老人ホームの防火訓練に年2回参加している。	○	まずは有事の際に一番身近である地元消防団に協力依頼ができるように働きかけを行い、ホームの存在を含め日ごろの関わりができるような関係構築に努めていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎に毎食の摂取量を記録し、摂取量の低下については高カロリージュースや栄養補助食品を提供すると共に特養の栄養士の指導を仰いでいる。献立作成も栄養士が行っている。水分補給は1日1500mlを目安とし食事の際や入浴後十分取れるよう支援している。	○	食事摂取量は記録している。水分摂取量も記録することで入居者個々のバロメーターにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアの広い空間に全員が集い、食堂や調理室・居間が配置され天然素材をふんだんに使用し、床暖房のフローリングが居心地のよい空間となっている。入居者は思い思いの場所に腰を下ろし職員との会話を楽しみ、昼食の準備を一緒に行ないながらゆったりとした時間を過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはTV・家族の写真・家庭用品などそれぞれに思い出の詰まった品が持ち込まれ、採光や風通しもよく清潔な環境が保たれている。又、ベッドからの転倒を心配される入居者に職員の休憩室を提供する等安全面の配慮がなされている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームこもれび
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県下益城郡美里町佐俣388番地
記入者名 (管理者)	小松 達明
記入日	平成 20年 5月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>法人の理念とは別にホームの目標を年度毎に設定している。</p>	○	今後、ホーム独自に柱となるような理念を年度目標とは別に作っていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>法人理念は朝礼の際に唱和しており、ホームの目標に関しては、その目標に沿った個人目標を年度毎に設定している為、共有し取り組んでいるものと思う。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>地域の方へは、地域の集まり等の際、説明を行っている。ご家族へは、利用開始時等に説明を行っているが、その後は特別「理念についての説明」は行っていない。</p>	○	面会時等、説明の機会をつくり、理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>近隣の方と出会った際、挨拶はもとより短時間でもコミュニケーションをと心がけている。数名の方ではあるが、顔を出していただける関係が構築できている。また、近隣の子供達も頻度としては少ないが、遊びに来てくれるようになった。</p>	○	町の地域支援事業である「ふれあいサロン」に参加されている方の中から数名、グループホームへ来て頂き、交流会を開催している。これが定着するよう取り組み、計画がなくとも立ち寄って頂けるような関係を築いていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域支援事業「ふれあいサロン」への参加をはじめ、地域の祭り、神社参拝、ボランティア行事、地域商店の活用、地元保育園の行事参加等を通し、交流を行っている。</p>	○	自治会、老人会等の活動にも積極的に関わっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホームでの外出行事の際、現時点ではボランティアとして付き添いをお願いしているが、地域の高齢者の方にも声をかけ、外出の機会を提供している。</p>	○	<p>今後、ボランティアとしての関わりだけではなく、「ご近所さん」的な関係が築いていけるよう働きかけていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義については、常に話をしており、職員もそれを理解している。改善点等は一覧表をつくり、できることから一つずつ改善に向け取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の際の提案事項等をできるだけ取り入れ、サービスの向上に取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域支援事業「ふれあいサロン」参加を通し、質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在までに2名の方が成年後見制度を活用されており、職員も大まかなところは理解している。</p>	○	<p>今後も必要に応じて活用できるよう、社会福祉協議会との連携も密にとっていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の具体例を掲示し注意・喚起を行っており、防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面・口頭での説明を行っており、不明な点等は随時説明を行い、理解を得られるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見、不満等は受け入れ、反映できるよう心がけている。面会者以外の外部者へ表せる機会には特に設けていない。	○ 今後、何らかの形で外部へ表せる機会をつくってきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりに関しては、行事等活動内容を掲載した新聞を毎月発行している。また、面会時に日頃の様子、特に変化があった方はその都度報告している。金銭管理に関しては、詳細(領収書添付)を3ヶ月に1回お送りしており、物品購入時には必ずご家族の了承を得ている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から、御意見・苦情をいただけるよう日頃のコミュニケーションを心がけている。御意見箱の設置も検討したが、死角になる場所がなく、人目につく場所では難しいと判断し、設置していない。	○ 直接意見交換、苦情を言っていただけるような関係を築き、運営に反映できるよう努力したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションを密にとり、意見や提案を聞いている。また、月1回のミーティングの際にも意見等が言える雰囲気・場をつくり、反映させることができるよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在の各勤務の時間帯は、ご利用者の生活に合わせたものとなっている。	○ 今後、ご利用者の変化に合わせて、時間帯・人数等柔軟に対応していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動は行っておらず、離職の際も落ち込みがないようフォローしている。	○ 極力異動は避け、長く努めたいと思えるような職場づくりに努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じて参加している。また、内部研修も定期的に行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会への参加、ブロック会での勉強会を通じ交流を図っている。	○ 他グループホームの見学等、交流の機会をつくってきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人になれる休憩場所の確保。職員の誕生会、その他懇親会等を開催し、ストレス軽減に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を取り入れ、目標を個人で設定。目標設定の際、運営者も共に目標設定に加わる等、向上心をもって働けるよう努めている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談にて聴き取りを行い、不安解消に努めている。また、グループホームにどのようなサービスを望んでいるかも聴くようにしている。	○ 十分にコミュニケーションをとり、信頼関係を構築し、不安解消に努めたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上	○ 今後も面会時等、コミュニケーションを大事にし、ご家族の要望も受け止めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族等の介護力、望んでいるサービスを相談時に聴き取り、グループホーム以外のサービスが適していると判断した場合は、他のサービスを勧める等の対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学をして頂き、「お試し期間」を設け、ご本人が納得された上で利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に心がけており、料理の作り方や昔ながらの行事等、ご利用者に尋ねながら進めるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは面会時等、日頃のコミュニケーションを密にとり、情報を共有できるよう努めており、必要に応じてご家族への支援要請を行うこともある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠にならぬよう電話連絡時に取り次いだり、行事参加の呼びかけを行い支援している。また、病院の定期受診等も依頼している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソン以外の方も多く面会に来ていただいている。その際、継続的に来て頂けるよう言葉かけを行っている。	○	個別に馴染みの場所への訪問等行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の相性を把握し、トラブル回避に努めており、孤立しがちな方は仲介するよう心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて行っている。特に移住された場合は、落ち着かれるまで相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者同士の会話、スタッフとの雑談の際、本音を言われることが多い為、聞き逃さないよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報として、ご家族・担当ケアマネ等より提供していただき、それ以降はご家族来所時に情報収集するよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメントシート等の活用にて把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族から情報をいただき、カンファレンス・ミーティングの際にアイデアを出し合い計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じ見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事実の記載は行っているが、気づきや工夫面での記載が不足している。	○	記録方法の改善が必要と思われる。簡潔かつポイントをおさえた記入方法を検討したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設での行事参加、ご利用者が落ち着かれない時等の「お出かけ先」として活用。また、お互いに行き来し、ご利用者の気分転換の場にもなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの方の協力を得、外出や料理作り等を行っている。また、年2回の防災訓練は消防の協力を得ながら実施している。その他、保育園行事への参加等を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、併設特養のデイサービスの利用、「ふれあいサロン」への参加を通し支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加を通し協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医は、ご本人・ご家族の希望に沿い、入居前の医療を受けていただいている。ご本人・ご家族の都合でかかりつけ医を変更する場合は、ホームと連携している医療機関も含め、紹介している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、専門医への相談を行うようにしており、アドバイスを受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設特養の看護職・往診を依頼している医療機関と連携し、日常の健康管理に努めており、気軽に相談できる関係となっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはこまめに訪問し、早期退院に向けての情報交換を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成しており、今から取り組んでいくところである。	○	勉強会を開催する等、共有に向け努力していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	指針を作成する等、現在準備段階である。	○	同上
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際は、ご家族・担当ケアマネからの情報提供、退居の際は、移住先への情報提供を行い、住み慣れるまでは連絡を密に取り、ダメージを最小限に抑えられるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	全職員が意識し、自己決定の場を作り、希望を引き出せるよう努めていきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	お酒等の嗜好品はもっと日常的に楽しめるよう個別に対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のサインを把握し、失禁の減少に努めている。	○	数名の方に関しては、サインの把握により失禁の減少に繋がっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は休みなく実施。時間帯は大まかに決めており、その中で希望の時間に入らせていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調に応じ起床時間を変えている。日中も夜間の睡眠状況に応じて休息の時間を確保している。就寝前はゆっくりとコミュニケーションとり、安眠されるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・後片付け・掃除・裁縫・買い物等をそれぞれの好みに合わせ、役割・楽しみとして行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持したいとの希望がある方には財布をお渡しし、少額(数千円程度)所持していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により、散歩・併設特養のデイサービスの利用、買い物、行事等、外出の機会をつくっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事として出かけたり、ご家族の協力で出かけられたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には応じている。また、贈り物等が届いた際は、こちらから連絡を入れ、取り次ぎ、直接お礼を言われたりしている。遠方の親戚の方等に事務連絡をする際も会話の機会をつくるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に定めておらず、いつでも来ていただけるよう言葉かけを行っている。また、食堂とは別に面会時に使えるスペースを確保しており、ゆっくり過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体例を掲示し徹底を図っている。	○	運営者を含め、身体拘束についての勉強会を開催する等し、身体拘束をしないケアの徹底に取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に関しては、自ら施錠される場合を除き、1日通して施錠はしておらず、玄関も夜間のみ施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に見守りができる場所に待機するよう心がけており、所在確認、様子観察を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別に対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態把握に努め、事故の可能性を個人別に分析している。	○	事故・ひやりはつと報告時にカンファレンスを行い分析し、再発防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1～2回勉強会を開き訓練を行っている。	○	急変時等に落ち着いて対応できるよう、勉強会等の機会をより多く取り入れていきたい。心肺蘇生法等、常に目にとまるよう掲示し、急変時に落ち着いて対応できるよう心がけていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練、避難対応マニュアルの掲示を行っている。	○	地元消防団等との連携も図っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	認知症の進行、下肢筋力の低下に伴い、転倒等事故のリスクが高くなってきている方のご家族には随時説明を行っている。	○	ご家族からも対応策としてのご意見を出していただけるよう話し合っていきたい。また、今以上の信頼関係が構築できるよう努めていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、変化に注意しながら対応している。変化があった場合、上長へ報告し、「健康管理連絡簿」に記録し情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの「薬の説明書」をカルテに綴っており、その都度目を通すようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者に合わせて、館内歩行・散歩等の運動や冷たい牛乳を提供する等の対応を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行い、義歯の洗浄・消毒を行っており、保管もご利用者に合わせ介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量をチェックしており、摂取状態等悪い時は、高カロリージュースや栄養補助食品等を提供している。	○	カロリー制限等の必要性が生じた場合等、併設特養の栄養士と相談しながら個別に食事提供を行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、感染予防に努めている。	○	時期に応じて各感染予防の勉強会等を開催していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	2日に1回食材を購入し、魚に関しては地元の鮮魚店より使用する日に直接配達してもらっている。調理器具・キッチン・テーブル等は次亜塩素酸での消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前のアプローチに花壇を設け、植木等も閉鎖感のないように、すっきりと剪定している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手な飾り付けはなく、ご利用者のご家族や職員家族の手作りのパッチワーク等をさり気なく配し、家庭的な雰囲気と心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の多くの場所にベンチや椅子が用意しており、気分によって思い思いの場所で過ごして頂けるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染のものを持ってきて頂くようお願いしており、使い慣れた家具や食器類を持ち込まれている。また、ご家族からの写真やハガキ等を壁に貼っておられる方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、24時間換気を行い、ご利用者の感覚に合わせ冷暖房の調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや浴槽への支援バーの取り付けや滑り止めマットを使用することにより、移乗や立位の安定を図ると共に、「できること」への一歩を支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ゆっくりとした声かけや理解が得られない時には言葉や言い方を変え、理解を導くよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時等、テラスでのおやつを催したり、季節により干し柿、切干大根作り、生花、七夕飾り、クリスマスのイルミネーション等を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ご利用者の「できること」を大切に日々のケアにあたっており、ご利用者の生き生きとした表情を見ることができる。
- ・入院されても早期に退院できるよう努力しており、退院後も比較的早く回復される方が多い。
- ・当グループホームでは外出、外食等の機会を多く取り入れており、できるだけ外での気分転換ができるよう心がけている。
- ・夜間眠れない方等でも、できるだけ薬に頼ることなくご利用者のペースに合わせ対応を行っている。
- ・地域の方との交流会や、地域ボランティアの方と共に行う行事等を行っており、地域の中で自然な形で生活を送れている。
- ・食への意欲を引き出す為に外食・行事の際の出前等を数多く取り入れている。